

生活情報科の竹炭づくりのようすが新聞に掲載されました！

新三河タイムス 平成 24 年 8 月 23 日

焼き上がりに「ワクワク」 松平高 竹炭づくりに挑戦



竹炭づくりに取り組む生徒ら＝鍋田町の森林で

豊田市鶴ヶ瀬町の松平高校（阿知和聖二校長、生徒数592人）の家庭クラブ員の中の15人がこのほど、里山に繁茂する竹を伐採して竹炭に活用する取り組みを行った。今年で7回目。

里山の環境保全活動の一環。加藤五男さん（岩倉町）の指導で伐採した竹をそろえ窯に入れ、レ

ンガで口をふさぎ火をつけた。30時間焼き続け、焼成後に窯出した。春に切り出した竹を使用し、たたため水分がやや多く、ひびが入ったり気泡ができたものも多く、製品になるのは10分の1程度だったという。

焼きあがった竹炭は選別され、部屋や玄関、トイレなどの消臭剤のほか、

長いものはブーツ用の消臭剤に加工し、同校の文化祭や、松平交流館まつりなどで販売する。

1年生からこの活動に参加している家庭クラブ会長の3年阿部麗子さん

「美里」は「炭作りは冬が良いといわれているが、夏の活動で暑さと虫との戦いで大変だったが、窯のふたを開ける時は毎回わくわくする。今年は焼

きすぎてしまい、使える炭が少なかったが、竹炭を使ったアイデアいっぱい作品を作り、多くの人に使ってもらいたい」と話した。

【岡田さち代】

(この記事・写真は新三河タイムスの許諾を得て転載しています)